

「わかる」を大切にした水泳学習

佐々木 盛文（千代田小学校）

1. はじめに

4年生(3クラス)の子どもたちとの実践。目標として「みんなで25mを泳ごう!」を掲げました。みんなでお互いにアドバイスをし合って目標を達成できたかと思いました。教材はドル平です。ドル平で泳ぐためのポイントを考えて、できるようになってほしいと思っていました。できることのほかに今回は「ポイントを自分たちで発見すること」にも挑戦しました。発問をしてそれをグループで予想し、実験して答えを導き出すというものです。水泳の前に行ったマットのときと比べてグループ学習をより深めたものにしたいという思いもありました。また、発見させることによってより「わかる」が深まるのではないかと考えました。とにかく、教師が発問をして子どもたちが考え、自分たちで技術ポイントを見つけ出す、このことで子どもたちがより主体的に取り組むことができたかと思えました。

2. グループ作りは教師で

マットのときには「自分たちで決める」方法で好きな人同士というグループになってしまいました。『体育のグループ学習』の中にあった、子どもたちに「委ねる」という言葉が引っかかっていたからです。好きな人同士で行うと、やはり同質のグループになってしまいます。実際に授業になると、教え合いはできるものの「友達のつまずきのポイントから自分の技にかえす」ことができなかった人(グループ)がいたように思います。できる人が集まってしまい、すぐにできてしまい課題がほとんどない!というグループやみんなができずに四苦八苦しているグループなどが出てしまいました。できるグループにはクラスの共通課題以外の別のものを与えざるを得なかった、といったありさまでした。それでは自分が思い描いている「グループ学習」ではありません。ということで、今回は異質のグループにしました。子どもたちに異質グループの必要性を感じさせる取り組みをしていないため、教師が作ったグループで行うことにし

ました。アンケートをもとに行いました。

4人または3人グループで行いました(各クラス7グループ、計21グループ)。

3. オリエンテーション

オリエンテーションでは、プールの使い方、グループ学習の進め方、水泳の授業の目標を知らせました。マットのときと同じように、できるためのポイントがあることを確認しました。そして、今回はそれをみんなで見つけてもらうことを告げました。

まず、「何ができたら泳げる? 3つ考えて」と問いかけました。「浮いて」「息つぎをして」「進む」ことができたら泳げることを確認しました。そしてそのためにまず、浮くことについて考えることにしました。

グループごとに「背中がポッカリ浮くためのポイント」を予想しました。とにかく、できるだけ出させました。その後、グループごとに発表していき他のグループの良さそうなポイントも実験して良いことにして、書き加えさせました。次の時間(初めてのプールの授業)はこの実験から行うことを告げて終わりました。

6月21日(月) 3・4時間目

<今日のめあて>
・水になれよう。
・浮くためのポイントを見つけ出そう。

背中がポッカリ浮くためのポイントを見つけよう!

誰どこを、どのようにしたらいいのかわかるか、考えよう。
まず予想しよう。そしてプールでやってみよう!

予 想	山本	村中	中 原	坂 本	結 果 (○、△、×)
たろくする(たろく)	○	○	○	○	
せなかをみる(せなか)	○	○	○	○	
下を見る	○	○	○	○	

息つぎの練習をしよう!

◎「ばっ」と息を一気にはきだす

「1、2、3〜んばっ」 続けて何回できるか、書きこみましょう

山本	村中	中 原	坂 本	結 果
10回	10回	10回	10回	10回

4. 子どもたちに任せました

子どもたちに任せるようにしました。1回目の入水の時は、行い方を指導しました。体操、シャワー、入り方、水なれ、などを教えました。そして2回目以降は自分たちで行うことにしました。自分たちですると、用意の

なんと早いことか。てきばき着替えてすぐに授業が始まるのです。少しでも遅れようものなら、グループ全体から「遅いわ～」と一喝されていました。気まずい雰囲気になっているところもありましたが「これもグループ学習」と見てみぬふりをしながら進めていきました。なんとかなるもので、けんかしながら一応、練習はしているようでした。長休みや昼休みの次の時間になると「しめた」もので、早く着替えてプールの前で待っているの、5分前に授業が始まる！なんて素敵なことが起こっていました。4年生だからかな～。

5. 授業経過

①	6/18 (教室)	オリエンテーション・浮くための予想
②	6/21 2h	浮くためのポイントの実験
③		息つき練習
④	6/23 2h	息つぎの練習
⑤		浮くためのポイントの実験 その2
⑥	6/29	浮く練習
⑦	7/2	ふし浮き呼吸の練習
⑧	7/6	泳いでみよう (ドル平)
⑨	7/8	ドル平の練習
⑩	7/9	ドル平の練習
⑪	7/13	顔を「ガバッ」と「にゅ～」の比較実験
⑫	7/15	ドル平の練習
⑬	7/16	記録会
⑭	7/17	まとめの感想

6. 実験からスタート

さあ、いよいよ授業の始まりです。まずは実験からスタートです。各グループで2・3個のポイントについて実験しました。実験するといっても、比較するわけでもなく、単にそのポイントを意識するだけになっていたのかもしれませんが。その上、とにかく寒かったので、途中でプールから出る子どもも多く、本当の意味で実験になったのかわかりません。そのポイントが当たっていたら○をつけ、当てはまっていなかったものに×をつけました。一応実験結果がでたので、次の時間にまとめることにしました。この時間は、泳げる子ども（浮くことができる子ども）が実際に行っていて、泳げない子どもは一応やってはいましたが、グループのメンバーが行っているのを見て、確認しているといった様子でした。

7. 浮くためのポイント！

「浮くためのポイント」を自分たちで見つけることを行いました。前時の実験結果をざら紙にプリントをしてプールサイドで実験のまとめをしました。予想したポイントに×を

つけていたグループに確認していくと、ほとんどが「寒くて実験していない」とのことでした。各グループが考えた予想がほぼ当たっていました。

「力をぬく」というポイントは多くのグループが考えていて、確認できました。「あごをひく」「おへそをみる」のポイントも多くの班が予想・実験をしました。あごをひく、おへそをみる、下（そこ）をみる、頭を下げる、おなかをあげる、背中を丸くする、こしをまげる、がどれも同じことを意味していることを確認して、一つにまとめることにしました。一応「おへそを見る」をポイントにしました。

他にも、息をとめる、空気をいっぱい入れる、息をはく、口をあける、足や手をのぼす、からだをのぼす、についても実験しましたが、自然消滅的になくしてしまいました（私か積極的に取り上げなかったため）。かべをもってジャンプ、バタ足、普通に泳ぐ、というポイント考えたグループもありました。これらは「浮くことではない」ということでとりあげませんでした。

結局「力をぬく」「おへそを見る」「手や足をのぼす」「息をとめる」の4つについてもう一回実験を行うことにしました。そして、その結果から次のようなまとめをしました。なんだか強引のようですが、とにかく浮くための2つのポイントを導き出すことができました。

6月29日(火) 4時間目

<今日のめあて>

・浮いてみよう。

・ふし浮き呼吸をしてみよう。

みんなが考えたポイントを確認しよう。

浮くためには、まず息をとめて手と足をかるーくのぼします。そして次のポイントに気をつけて浮きましょう。(00s)

名前	嶋	坂本	杉村	中原
力をぬく	休	◎	◎	○
おへそを見る	休	△	△	△

息つきと 浮く を合体させると

ふし浮き呼吸 になります。

・ふし浮き呼吸では、浮いてくるまでずーっと持って、浮いてきたら息つきをします。

何回できるかやってみよう！

なまえ	嶋	坂本	杉村	中原
回数	?	10回	10回	2回

8. 息つきは大事！

浮くことと並行して、息つぎの練習をしました。「いち、にい、さあ～ん、パッ」のリズムに合わせて前にペアの人が立って、観察しながら行いました。まずは、その場で10回を目指して行い、つぎに歩いて行いました。25mを歩きながら目指しました。とにかく「パッ」と息をはいて息つきすることを意識させました。それとなるべく肩は水面から出さずに首だけで顔を出すことも言いました。苦手な子は、とにかく息つきしたいのか、首だけで行うことができない？という意識していないようでした。息つぎの練習は2時間

行いました。

9. ふし浮き呼吸からドル平へ

浮くことと息つぎを合体させて、ふし浮き呼吸をしました。

ここでは多くの子どもがつまづきました。やはり3回くらいがかべのようでした。この練習を2時間かけて行いました。とにかく浮くまで待つことができるように意識させました。

そしていよいよドル平に入りました。特に意味もないのですが、ドル平という名前をださずに「泳いでみよう」として泳ぎました。もちろん「けってー、けってー、のびてー、パッ」のリズムで泳ぎました。始めは息つぎの回数が何回できるかをチェックさせて距離を意識させずに行いました。

7月2日(金) 5時間目

<今日のめあて>

ふし浮き呼吸の図をふやそう。

ふし浮き呼吸 10回 めざしてがんばろう

ういて(うま)でじとまつ
「あへそを見る」
「力をぬく」

「背がぶる」カリウーたらOK!

「息つぎの時」はあへそを見る

	山島	坂本	杉村	中原
あへそを見る	○	○	△	△
力をぬく	○	○	○	○
回数	10	10	10	2

※練習に当たっては、すぐに記録して書きましょう。

7月7日(金) 3時間目(七夕)

<今日のめあて>

泳いでみよう!

○今までは「浮いて」「息つぎ」をしてきました。今日からいよいよ泳いでみます。リズムを大切に泳ぎます。

けってー、けってー、のびてー、パッ

「けってー」「けってー」

「のびてー」

「パッ」

「あへそを見る」

「力をぬく」

「息つぎの時」はあへそを見る

	山島	坂本	杉村	中原	坂本
息つぎ「パッ」	○	○	○	○	○
あへそを見る	○	○	○	○	○
力をぬく	○	○	○	○	○
回数	3	5	2	7	7

※練習に当たっては、すぐに記録して書きましょう。

10. 「ガバッ」 v s 「にゅ～」

もう一つ考えさせたことがありました。それは息つぎで顔をあげるときのことでした。顔を「ガバッ」と上げるか「にゅ～」と上げるか、比較実験を行いました。結果をその授業時間内に聞いたところ、多くの子が「にゅ～」という意見だったのです。

7月13日(火) 1時間目

<今日のめあて>

ふし浮き呼吸のポイントを見つかけよう。

泳ぎのように練習しよう。

○どちらが泳ぎやすいか実験してみよう!

A ガバッと上げる

「わねが水の上に出るくらい、いさおよく上げる。」

B にゅ～と上げる

「首だけを動かして水の上に顔だけがでるようになる。」

	山島	杉村	坂本	杉村	坂本
息つぎ「パッ」	○	○	○	○	○
あへそを見る	○	○	○	○	○
力をぬく	○	○	○	○	○
回数	5	8	2	7	7

※練習に当たっては、すぐに記録して書きましょう。

が、一部の子が「ガバッ」と言っていました。その後の時間はその「にゅ～」を意識して練習しました。やはり比較実験することは、前の浮くためのポイントを探す実験よりも子どもたちにはわかりやすく、すんなりおちたのではないかと思います。

「どちらが泳ぎやすいか」という発問がいまいでした。「ガバッ」は息つぎがしにくい子どもにとってはしっかり顔が上がるので息つぎがしやすくなるのです。ここでおさえたかったのは「より沈まないために「にゅ～」と顔を上げること」でした。

11. 教え合いの様子

授業の前半はポイントを見つけること、それをチェックし合うことを行いました。後半で自分のめあてを持って練習に取り組む、みんなで教え合うことをしました。このころになると自分たちでの練習がほとんどであったので、遊び出す班もけっこう出現してきました。授業の前半はプールの横を使って、後半はプールの縦を使って練習

をしました。特にプールの横を使っている時間に多く遊んでいました。遊んでいる子どもの様子は、1人だけ苦手な子がいて残りの3人のうちに2人は懸命に教えている、あとの1人が遊んでいるといった状況でした。その状況にある違う班の2人で遊んでいることもしばしば。あと特に目だったのが「バタ足」をしている子どもです。別にそれほど遊んでいるわけではないのですが、なぜかバタ足をする子どもが多かったように思います。

それよりも多かったのが、懸命に教えている子どもの姿です。文句を言い合いながらもお互いに声をかけてアドバイスしている姿が目立ちました。ドル平の練習でも、水泳以外のほかの種目でもそうですが、いかに「自分や友達のつまづきに気づくか?」「そのつまづいているところにもどって練習できるか?」が大切になってきます。ドル平の練習3時間目に自分のめあてを書くこと、そのめあてをグループで確認することを行いました。友達のつまづいているところを見てあげている様子が見られました。

7月18日(水) 2時間目

<今日のめあて>

4つのポイントを気をつけて練習しよう。

○みんなのめあてを確認しておこう

なまえ	めあて
山島	あへそを見る
杉村	顔を「にゅ～」と上げる
中原	うんと、力をぬく!
坂本	

	山島	杉村	中原	坂本
息つぎ「パッ」	○	○	○	○
あへそを見る	○	○	○	○
顔を「にゅ～」	○	○	○	○
力をぬく	○	○	○	○
何m(回数でもいいです)	25	25	25	25

1手を持ってもらった人は○を

12. みんな泳げるようになったの？

結論、みんなが25mは泳げていません。そう言う意味では実践としては失敗であったと思います。はじめの段階で49人が25mを泳ぐことができませんでした。その49人の中で3人は15m以上泳げていた人です。その3人は泳ぐことができました。15m泳げていなかった人の中で29人は泳ぐことができました。

しかし、15人は25mを泳ぐことができませんでした。なぜこの15人は泳げなかったのか考える必要があります。

13. 息づきが大切なんだけど

「ドル平がすばらしいのは「息づき」を大切にしているところです」というようなニュアンスの言葉を水泳講習会で私自身がいつているのにもかかわらず、この実践では息づきを見事に軽く扱ってしまったように思います。というのは15人のつまずきのほとんどが息づきだからです。息づきを扱った時間は実質2時間でした。その時間には何回かは続けて息づきをできていた子どもたちが、ふし浮き呼吸になると、ほとんどできないのです。ドル平を練習して何とか泳げるようになっても13mくらいのところで苦しくなって立ってしまう、といった具合です。

その理由としては、子どもたちの意識が「息づき」に向いていなかったのだと思います。ドル平の4つのポイントのうち、「おへそを見る」「力をぬく」「顔をにゅ〜っと上げる」の3つは実験を通して導き出してきたものです。残りの「息づきパツ」は教師から言っているだけです。また、その4つのポイントの優先順位（見る順番）についても触れていませんでした。子どもの意識として「息づきが大事だ」というようにはなっていなかったのです。そのため、練習でも浮くためのものが多くなってしまったのではないかと考えられます。

「まず息づき」という思いがあれば、25m泳げなかった子たちももっと泳ぐことができたかもしれません。

リラックスできていないと息づきが続かないということも考えられます。13mで立ってしまう子どもはおそらくお腹に力が入っていて十分に息づきができていないように思います。なんとか13mは続くのですがそこからの息が持たないのです。そのことがわかっていれば、リラックスを意識させることや、13m付近で1回だけ手を持ってあげて息を確保させてあげることもできたと思います。息が確保できるのがわかれば自信を持つことができ、リラックスもできるようになり、さらに息づきも楽になったのだらうと思います。

この15人をおちこぼしてしまったことは、大いに反省しなくてはならないことです。

14. やはり自分たちで見つけることが大切

上でも書いたように、実験で見つけたポイントは子どもたちには意外とすんなりおちているように思います。とくに浮くことに関しては、よく考えていたし、感想にもその記述が多く見られました。それだけ理解が深いと言うことなのだと思います。「おへそを見る」と言うポイントなのですが、実はおへそをしっかりと見ると鼻に水が入ってしまうことを子どもたちは見つけ出しました。そのためか「そこを見る」や「下を見る」という書き方にしているグループも見られました。また「ガバツ」vs「にゅ〜」のあとのめあてで、「息づきをしてからしずまないようにする」というものがありました。自分で実験して見つけたから出てきたものだと思います。

教師から与えられたポイントならばそのことしか考えないと思います。子どもたちが自分たちで見つけたものであるから、自分たちで授業を作っていくという思いがより強くなると思います。自分たちで考えることが、「自分たちの授業だ」と思える一つの要素なのかなと思います。

15. グループ学習としては

水泳の学習の前には、マット、リレーでグループ学習に取り組んできました。そのときはまさに教師が提示したポイントをもとにみんなでチェックして行って、上手になっていくというものでした。しかし今回のグループ学習は自分たちでポイントを見つけることによってグループ学習の質がちょっとだけ高まったのではないかと思います。

支部研究の「グループ学習」と照らし合わせて、いくつかのポイントでもう一度振り返ってみたいと思います。

16. 縦の関係？横の関係？

今回は異質グループで取り組みました。その中で得意な子どもと苦手な子どもがペアになって練習しました。いくつかのグループやペアについて考えてみます。

このグループはOKDくん、MEDくん、TANさんは得意な子どもです。FUJさんが顔もつけられないくらい苦手な子どもです。OKD-FJIがペアになって教え合い？ました。

このペアでは、OKDくんがアドバイスをする、FUJさんが教えてもらうという様子が多かったように思います。

OKD さんの FUJ さんへのアドバイスです。

(六月二十三日) 目までつけて3びょうかんできたね。そのちょうしでがんばれ！

(七月一日) やっと20びょうできたね。20びょうできたらうくのまちがいなし。

(七月二日) 今日は、うけたね。まいにちこつこつじょうずになっていいよ。

(七月六日) うけるようになったら次は、いきつきだよ。それできたら泳げる。

(七月九日) はなをつままずにうけたね。だんだんじょうずになってきてるぞ

この FUJ さんへのアドバイスから考えられるのが、OKD さんは FUJ さんができるようになってきていること、次に何をしたらよいのか、という泳ぐためのステップを学んでいるように思います。浮くまでも段階があって、それを少しずつステップアップしていくと泳ぐことができることを感じ取ったのではないのでしょうか。

一方 FUJ さんから OKD さんへのアドバイス

(七月六日) さむくてできなかったの？つぎはガンバってはいらう！

(七月九日) 今日は OKD さんは、すぐにどっかにいっちゃうからいかないで！

このように FUJ さんは OKD さんから教わっているだけの関係になっていたように思います。また OKD さんは前半は FUJ さんにアドバイスをすることによって浮くためのステップを学んでいたのですが、途中から少し遊んでしまったようです。授業で学習することと FUJ さんを教えることとのギャップがあったのかもしれません。

FUJ さんのまとめの感想

はじめはぜんぜん水にもなれてなくて、入るのがとってもこわかったけど、4年生になってだんだんいろんなことができてきた。今は水の中で「ソー」つて言ってやってるけど、がんばって息をとめてやりたいけど、はなに水が入ってくるからこわくてできないから「ソー」つて言ってやっている。でも「ソー」って言わなくてもできるようにがんばって、ぜったいに、泳いでみせる！ぜったいに…。

OKD くんや他のグループのメンバーの支えによって、今まで嫌いだった水泳に対して、「泳いでみせる！」という意気込みを書いてくれ

ました。そして「泳ぐために必要なことは？」の質問に対しては、「みずになれる、いきつき、かおつけ、うく、おへそをみる、力をぬく」と答えています。泳げないなりにグループの一員として水泳の学習ができたのではないかと思います。

SIM くんはスイミングクラブの選手コースで練習している子どもです。SKM くんも25mを余裕で泳ぐことができます。SGM さんは5m、NKH さんはアトピーで2・3年生のときにプールに入れずほとんど泳げない、という泳力です。

SIM くんも SKM くんも授業中は、SGM さん、NKH さんによく教えていたように思います。SIM くんは、自分なりにスイミングでの知識とは違うものを学習していました。

(七月八日)「けてけてのびてパッ」でさいしよはまえをみてて次は下をみてみた。それで下の方がみやすかった。

(七月十三日) ガバットいきをするとにゅ～といきつきをやった。ガバットいきをやるのは足がしずんでやりにくいけど、にゅ～とやったら足がしずまなかったからやりやすかった。

しかし、ペアである SGM さんから学び取ったものではありません。唯一、SGM さんへのアドバイスで

(七月十三日) 頭から出てくるから、もうちょっとおへそを見たらうまくてできるよ！

ということを書いています。それが SIM くんの泳ぎにかえたかどうかはわかりません。また SKM くんも、それなりのアドバイスを書いたり、教えたりしています。しかし NKH さんから気づいたことの記述は見られません。

SKM くんのまとめの感想

去年の水泳と今年の水泳のmが同じだった。今年初めて学校のプールに入った NKH さんにせいいっぱい教えたり教えてもらった。ぼくはもう25mは楽しそうにいけるからそんなにくろうはしなかったけど、ほかの泳げない人はめっちゃくろうしたと思う。今日4年さいごのプールでは、NKH さんは25m中8m、SIM くんは25m、SGM さんはぎりぎり2回目に25mおよげた。ぼくも25mやからよかった？

泳げない人のくろうを感じ取ったのだろうと思います。自分の泳ぎにかえてはいないのですが、泳げない人ががんばっている姿をみて、自分も教えてあげようと思って、せいいっぱい教えてあげていたように思います。同情的なのかもしれませんが、うれしく思える

関係なのかな～と思います。しかしこの関係が必ずしもグループ学習の視点から考えても良いとは思いません。

また最後の「？」には、「あまり満足できなかった」という気持ちが感じられます。前述した OKD くんも途中から遊び出してしまいました。やはり満足できなかったのかもしれませんが。

これらの2つのグループから考えられるように、まだ横の関係になりきれてないように思います。このことはどのグループでも同じように言えると思います。グループ学習ということで教えてはいますが、教え合いになっていないようです。水泳は技能差が大きいから、苦手な子どもを見ることによって自分の泳ぎを客観的にとらえることができるチャンスが多いはずなのですが、そのことを見出すことができなかったように思います。そこが横の関係を作っていく上で大事になってくるように思います。

17. 苦手な子どもはどうだったの？

私は2、3年生はプールをアトピーだから休んでた。でも今年は8mできてすごくうれしかった。でもおなかがいた～い。う～。来年も入れるときいたいのがいや。水をのんじゃって「げぼっ」てなるし～。だけど来年もガンバル。(NKHさん)

25m泳げなかったけど楽しかった。息つぎのしかたや泳ぎ方とか教えてもらった。そのおかげで14mおよげた。うれしかった。(MTIくん)

私は3年のときはプールに入りたくない」と言っていた。でも家に帰ったとき「プールに入りたい」と言っていた。でも今は楽しい。だけど家に帰ったって入りたいぐらいだった。でも夏休みになったら、はいから村のプールで練習しようかなあとと思います。(FUJさん)

1、2、3年生のときから泳ぐのが苦手だった。でも4年生になってから TUC くん「おへそを見ろ」「パッといきをはけ」といっばいちゅういされて、やっと8mおよげるようになった。とってもうれしい。先生もおうえんしてくれた。(MRYさん)

意外と前向きな意見が多いように思います。グループのみんながいろいろ言ってくれたから少しはできるようになった、という感想が多くありました。グループ学習で救えたのかな～とも思います。

18. 泳げる子どもは満足したのか？

前で取り上げた OKD くん、SKM くんのようにあまり満足していないという子どもも何人かいます。しかしグループ学習に一定の満足を感じている子どもも多くいたようです。

楽しかった。今まではそんなこと（うくことや1、2、3～ん、パッ・ふし浮き呼吸）やってなかった。今までは泳げる人、少し泳げる人、泳げない人でやっていた。泳げる人ばかりでやるのは少しあきていたけど今度は4年生全員でやったからすごく楽しいし、私だってずっと泳げていたからずっと泳いでいるだけだった。でも4年になってからは、みんなに合わせてやったから3年のときは浮いたりそんなことはしなかったから、だから楽しかった。(STMさん)

今年の水泳は泳ぐことについていっぱい学んだ。3年の時と4年の時とぜんぜんちがう！3年の時はちょっとくるしくなって、息つきもちっとしかできなかった。だけど、4年の水泳はいっぱい息つきもできて、くるしくない。3年の時とぜんぜんちがう。4年の水泳はとっても楽しくできた。(YMMさん)

今年の水泳はおもしろい部分もあった。でもおもしろくない部分もあった。おもしろい部分は、目標「クラスみんなが泳げるようになる」があったのと最初に水なれがあったのが良かった。それとずっと自分たちで練習できたことだ。おもしろくなかったのは、自由時間がないことだ。また夏休みもくるぞー。(TUCくん)

19. さいごに

とにかく「考えさせること」でグループ学習をより深めていこうと考えて行った実践でした。自分たちで見つけていくことでそれ以外のことも自分たちで考えていました。おへそをみると鼻に水が入ってしまうから「下を見る」というように自分たちでポイントの表現を変える班もありました。教えることでグループ全体の認識はより深まったのではないかと思います。

グループ学習を進めていくためには、技術認識を深めなくてはならないと改めて思いました。その意味ではグループ学習としての深まりはあったのかもしれませんが。

もっとグループ学習を深めていくためには、教え合う関係から学び合う関係にしていくなめのもう一手が必要だと思っています。